

2009 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会	学科
担当科目	社会統計学 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私は 2009 年度秋学期社会統計学 I のチューターとして、レジュメのコピーなどの事務的な業務、また学生からの質問に対する回答や、小テストの採点などの専門的な業務を行いました。

春学期同様、受講している学生は統計に苦手意識を持っていました。そこで、問題の解き方を教えるというよりは、定理の意味や統計分析の根本的な意味を重点的に教えるよう心がけました。春学期は生徒数が多く、効率よく指導することが難しかったですが、今回は比較的数量が少なく、春学期よりは行き届いた指導ができたのではないかと思います。

武田先生は学生にとっても非常に話しかけやすい方でしたが、些細なことで質問をしていいのだろうかと戸惑ったり、問題が解けないが何を質問すればいいのかわからなかったりなど、先生に質問するというに少し抵抗を抱いている学生もいます。そのような時に、チューターという存在は気軽に質問をできる立場として有用だと思います。

授業に関すること以外に、一度就職活動について学生から相談を受けたこともありました。学科の中で先輩後輩という上下関係はあまりないので、こうした相談役としてもチューターは良いものだと感じました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

レジュメを穴埋め方式にしたり、例題を多く解かせることで学生の授業に対する集中力が上がったように思います。限られた授業数の中では時間のやりくりが難しいかもしれませんが、できる限りこの方法を続けられたらと思います。